

第6回八戸市中心市街地活性化協議会 議 事 録

1. 開催年月日 平成21年3月23日（月） 14:00～16:00
2. 開催場所 八戸商工会館3階会議室
3. 出席者数

(1)委 員	23名
(2)オブザーバー	3名
(3)事務局	6名（タウンマネージャ含む）
(4)八 戸 市	5名

4. 議事の概要

事務局から開会を宣し、橋本昭一会長の挨拶の後、事務局から規約第14条により委員37名の内、23名が出席したことから定足数を満たし、協議会として成立する旨及び会長が議長となる旨を説明後、委員の変更者を紹介し、会長が議長となり議事に入った。

第1号議案 八戸市中心市街地活性化基本計画の変更について

八戸市より新規事業や継続事業あわせて4つの事業について説明があり、八戸市中心市街地活性化基本計画にその4事業を追加し計画変更する旨の説明がなされた。議場に意見を求めたところ、意見はなかった。

第2号議案 八戸市中心市街地活性化基本計画のフォローアップについて

八戸市より、内閣府から求められた八戸市中心市街地活性化基本計画のフォローアップについて、計画の数値目標である主要8地点の歩行者通行量と計画区域内の居住人口がいずれも減少している旨の説明があった。また、今回のフォローアップにおける数値は、目標を達成するための各種活性化事業が未着手及び事業実施中であることから、評価対象外である旨の説明があった。議場に意見を求めたところ、意見はなかった。

第3号議案 専門部会の活動状況について

事務局より、中活協内に設置されているICカード部会と花小路整備部会の活動状況について報告があった。ICカード部会については、共通駐車券のICカード化を検討してきたものの、費用対効果を考慮した際に多額の投資はリスクが大きいと判断し、ICカード部会を休止し、今後新部会を立ち上げ共通駐車券を（仮称）共通交通券としてリニューアルして来街者の利便性を高めることを協議することになった旨の説明があったほか、ICカード部会長 類家徳昌氏より検討経緯等に関する補足説明があった。また、花小路整備部会については、江陽閣グループが取得した旧レックの開発が鍵であり、それに協調して事業を進めるべく今後も協議を継続していく旨の説明があった。議場に意見を求めたところ、意見はなかった。

第4号議案 部会の設置について

事務局より、中活協内に新たに2部会を設置する旨の説明があった。空き床対策検討部会については、オーナー対象研修会や実態調査、必要施策の検討をしていく旨の説明があった。

(仮称)交通アクセス検討部会については、ICカード部会での検討結果を踏まえ、共通駐車券のリニューアルや駐車場の実態調査、その他必要な事項の検討を進めていく旨の説明があった。議場に意見を求めたところ、次のような意見があった。

- ・ 中心市街地の表通りにパーキングメーターを設置し、ちょっとした買物等に対応するようにすることが出来ないか議論を深めて欲しい。
- ・ 停車帯の是非について議論を早急に進めて欲しい。三日町ではないが、現在くらしの道ゾーン形成事業が進んでおり、既に設計段階まで来ている。警察の見解では認められていないが、一方通行の道路における右側車線の停車帯は現状において必要である。
- ・ 空き床検討対策部会の検討内容について、ビル等とあるが、路面店の空き店舗は対象となっていないのか。また、空き地となった低未利用地の検討も一緒に検討して欲しい。
 - 路面店の空き店舗も対象としている。
 - 現在空き地となっているところも基本的には活用方法を検討していく必要がある。ただし、空き地は活用するための手法や対策が異なるため、空き床・空き店舗と別個に検討するべきである。
- ・ 空き床は商業床(リテール)のイメージで考えているようだが、オフィスビルの空き床におけるテナントリーシングはやり方が異なる。双方の違いをよく認識し、それぞれにあった支援方策を検討して欲しい。
 - リテールとオフィスビルの違いについては、空床に関する意見交換会で契約方法等が異なることが意見として出ている。それぞれの違いをよく理解し、用途に合った適切な支援策を検討していく。

第5号議案 中心市街地テナントミックス調査事業について

事務局より、中活協が行った中心市街地テナントミックス調査事業の調査結果について説明があった。議場に意見を求めたところ、意見はなかった。

議案終了後、市より(仮称)八戸市中心市街地地域観光交流施設の施設概要及び事業進捗状況について説明があったほか、株式会社まちづくり八戸より中心商店街まごころ宅配サービスについて、八戸商工会議所より事業承継しサービス内容を拡充する旨の説明があった。

議長は、以上をもって本日の議事を終了した旨を述べ、16時00分に閉会した。